



2 ペットボトルの飲み物を買いますか？

その場で全員に聞いてみましょう。ペットボトルを持っている参加者がいたら、実際に見せてもらうといいと思います。ペットボトルにどんなことがかいてあるかを見たり、どのくらいの頻度で買うのか（1週間に〇本買う、まとめ買いをするなど）を聞いてみたりすることで、次の活動につながります。

2 日本のペットボトルのリサイクル

この問いは、その場で全員に聞いてみるでもいいですし、近くの人と話してもいいと思います。

日本のペットボトルのリサイクル状況は近年、変化しつつあります。このユニットに掲載のデータは2020年のものですので、最新版のデータを確認してください。また、ボトル to ボトルでリサイクルされたペットボトルを活動の当日に用意することができれば、リサイクルをより身近に感じることができそうです。

3 リサイクル・リユースのためのマーク

この活動はひとりで取り組むよりも、ペアやグループでの活動（2、3人）で考えたほうがいいと思います。参加者のみなさんの国・地域には、どのようなリサイクル・リユースのためのマークがあるかを聞いてみるでもいいかもしれません。また、余裕があれば、今回このユニットに取り入れなかった「世界の主要な環境ラベル」を提示して、参加者に聞いてみるでもいいと思います。（「世界の主要な環境ラベル」は、サポートサイトに掲載してある環境省のデータベースにあります。）

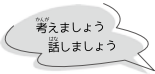
リサイクル・リユースのためのマークが付いている教室の物の例としては、例えば、ホワイトボードマーカー、箱ティッシュ、ボールペン、ノートなどがあります。

読みましょう

本文には地球温暖化の影響によって干ばつが起こることを記載しませんでした。参加者から話題提供があったら、是非、対話を展開させてみましょう。はじめからサポーターがすべてを説明するのではなく、まずは参加者に知っていることを話してもらうことで、参加者のなかで対話が生まれやすくなります。

今日のことば

「増える」「燃やす」「進む」「降る」「減らす」は、本文に出てきたかたちのまま記入しています。自動詞と他動詞が混合していますが、参加者のみなさんのようすをみながら対応する自他動詞を補足で説明してもいいと思います。



1 2020年から2050年までに、どのくらいごみが増えると言われていましたか。

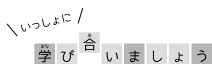
1は、本文の1段落目を参考に考えます。その場で全員で確認するかたちでいいと思います。

2 ごみが増えて、地球温暖化が進むと、わたしたち人間や生き物にはどのような影響があるでしょうか。知っていることを話しましょう。

2**3**は、絶対的な正解がある問いではありません。ペアかグループ(2、3人)で話したあとに全体共有するという進め方がいいと思います。自由に意見を出し合うことを大切に、参加者からの意見を尊重しましょう。多くの意見が出ることで話題が広がり、会話もさらに広がります。

3 あなたは“3R”を知っていますか。“3R”について自由に話しましょう。

3は、3Rについて知っていることを話す活動です。**3**もペアかグループ(2、3人)で話したあとに全体共有するという進め方がいいでしょう。このあとの【学び合いましょう】につなげられるようにしましょう。そのためには、全員が全員の話をしっかり聴き、お互いに少し踏み込んだ質問を試みたり、話を振ってみたりなどの工夫ができればいいと思います。



*** 「(オ) Return : 回収する」に関して**

本書 p.27 では、5R の“Return”の対訳として、「回収(できる/される)」を採用しました。本来、“Return”の対訳は、店側視点の「回収」ではなく、消費者視点の「返却」のはずです。しかしながら、慣用的に“Return”を「回収する」としている事例が少なくないように思われ、著者の間でいろいろと議論を重ねた結果、今回は、“Return”の対訳として「回収」を挙げました。一方で、本書の語彙リスト p.28 では、「回収する」の対訳を書いています(例えば、英語なら collect)。

1~**3**すべてグループでの活動(3、4人)がいいと思います。それぞれ活動が終わったら全体で共有する時間も設けるようにしましょう。

まず、**1**~**3**の活動に入る前に、(ア)~(オ)の内容をひとつずつ確認していきましょう。(ア)~(オ)にそれぞれ具体例を書きましたが、みなさんの住んでいる地域に、環境問題に関する取り組みがあれば、それを紹介してもいいと思います。全体を通して、身近なことから考えられたらいいですね。

1 (ア)~(オ)の中で、みなさんがしている取り組みは何ですか。

1では、参加者のみなさんが実際に行っている取り組みを聞きます。どんな些細な取り組みでもいいということ、話を聴く人はきちんと聴くということを事前に伝えておきましょう。そうすることで、グループ内の対話が広がります。また、【考えましょう・話しましょう】(3)で話が盛り上がっていたら、この活動はスキップしてもいいと思います。

2 (ア)～(オ) を大切だと思う順番に並べてみましょう。理由もいっしょに考えて

ください。

2では、ごみを減らすことの大切さを考えるのがねらいです。グループ活動で、自分の意見を話したり、ほかの人の意見を聴いたりすることで、新たな気づきや発見があるかもしれません。進め方としては、以下の2つが考えられます。

- ① 3、4人のグループにわかれて、(ア) Reduce～(オ) Return と書いた小さい紙を大切だと思う順番に並べ替える。そのあと、グループごとに全体共有する。



- ② 3、4人のグループにわかれて、大切だと思う順番を考える。そのあと、各グループが(ア) Reduce～(オ) Return の付箋を一枚の大きい画用紙や模造紙に大切だと思う順番に貼っていき、全体共有する。

①と②の違いは、全体共有のときに、ほかのグループとの違いが視覚化できるかどうかです。②はほかのグループとの違いを視覚的にわかりやすく比較できます。

3 ごみを減らすために、わたしたちは他にどのような取り組みができるでしょうか。

みんなで考えてみましょう。

3では、(ア) Reduce～(オ) Return のほかに、ごみを減らすためにわたしたちができることを考えます。毎日の生活の中でできることや身近な人がしていることから考えるといいと思います。各グループの意見、ひとりひとりの意見を尊重できるような場作りを意識しましょう。



環境問題は、比較的身近な話題で話しやすいと思います。身近な話題だからこそ、今日の活動を通して学んだことを改めて言語化することは、とても意味のあることです。また、サポーターのみなさんもふり返しをすることで、全員で学んでいるという意識をもつことができます。

※ふり返りの進め方などは、ユニット1に「まつお一口メモ」があります。あわせてご覧ください。